

「市民による核廃絶」運動の紹介

「ゴイル湖の平和運動家を支援する会」世話人
佐賀大学理工学部教授

豊島耕一 (toyo@cc.saga-u.ac.jp)

1999年10月21日、スコットランドの小さな町で、核廃絶運動の歴史に残る大きな判決が出されました。グラスゴーの近くにあるグリーンノックの治安判事裁判所は、ミサイル原潜関連施設「メイタイム」を家庭用のハンマーなどを使って破壊した3人の女性を完全無罪としたのです。判事は、「核兵器は国際法違反であり、自分たちの行為は核の使用という巨大な犯罪を防ぐためのものである」という彼女らの主張を認めたのです。この施設は原潜の音響特性などを調べるもので、その隠密行動を可能にするためにはなくてはならないものです。したがって核兵器の一部と言えます。

2日後の朝日新聞はこれを報じ、「核兵器の合法性について国際社会に改めて一石を投じ、世界の反核運動を勇気づける『小さな町の法廷の大きな判断』になるかも知れない」と記事を結んでいます。また「しんぶん赤旗」は2000年8月3日のヨーロッパの反核運動紹介記事の中でこの判決をとりあげ、「全国の反核活動家を活気づけた」と述べています。

彼女らのグループは「トライデント・ブラウシェアズ」と呼ばれ、70年代のアメリカに起源を持つ非暴力直接行動の流れを汲む運動体です。「ブラウ」とは農具の鋤のことで、イザヤ書の「剣を鋤に鋳直せ」という言葉にちなんでいます。つまりイギリスが配備している核ミサイル原潜「トライデント」を廃棄して「鋤」に変えよう、という意味です。

1988年夏に開始されたこの運動はその公開性が大きな特徴です。今回のようなやむを得ない場合を除いて、すべての直接行動（座り込みや基地への侵入など）はその内

容や日時、それに参加者の名簿まで事前に公表されます。そして暴力的な言葉さえも否定する完全な非暴力と安全を行動の基本にしています。また、直接行動自体を目的としているわけではなく、政府に交渉を求め、事前にあらゆる穏便な手段を講じ、それでも当局が責任ある態度を示さないために自ら行動を起こしたのです。

このグループは世界中に多数の支持者を持っています。その中にはカナダ・パグウオッシュのダグラス・ローチ上院議員、言語学者のノーム・チョムスキー氏、核物理学者ミチオ・カク氏、もと英国海軍司令官ロバート・グリーン氏ほか多くの著名人も含まれます。ロバート・グリーン氏はいわゆる「中堅国イニシャティヴ」の中心人物として、国連などを舞台に活躍しています。我が国からは日本山妙法寺の僧侶たちが多数現地で行動を共にしています。

トライデント・ブラウシェアズの中心人物であるアンジー・ゼルターさんは2000年3月に来日し、札幌から那覇まで全国8都市10会場で講演をしました。彼女の話しはその静かな語り口で多くの聴衆に衝撃と感動を残しました。講演の記録は岩波の「世界」2000年9月号に掲載されています。（裏につづく）

無罪判決の法廷の前で、1999年10月21日。



イギリスの司法制度では彼女らの無罪が覆ることはありませんが、スコットランド法務長官はこの判決の法律問題について上訴し、その審理が01年に終わりました。史上初の核兵器を裁く裁判が開かれ、元被告らは堂々とその「有罪」を法廷で論証しました。判決は01年3月末に出され、残念ながら判事らは核の違法性には言及しませんでした。

トライデント・プラウシェアズは今年夏もスコットランドの核基地で、8月4日から19日まで「市民による直接的な核廃絶」として基地封鎖などを試みます。このような大衆的な非暴力直接行動キャンペーンは3ヶ月ごとに行われています。

彼女たちの勇気と愛、そして地球規模の責任感、核廃絶運動はもちろん、私たちが日常出会うさまざまな問題についてもそれに立ち向かうインスピレーションを与えてくれるものと思います。すなわち、言葉だけでなく、なにがしかの自己犠牲も厭わずに、みずからの手で実践するという精神です。「日本では無理」と決めつける前に、考えるべき事はたくさんあります。

トライデント・プラウシェアズの詳細や、99年の無罪判決についての詳しい情報は、右上のサイトをご覧ください。最新情報もあります。

この団体のリーダーであり、2000年春に来日したアンジー・ゼルターさんの本が出版されています。

出版社： Luath Press

本のタイトル：

Trident on Trial: the case for people's disarmament

著者： Angie Zelter

(PBK#9.99 ISBN 1 84282 004 4).

「ゴイル湖の平和運動家を支援する会」のホームページ

<http://www03.u-page.so-net.ne.jp/ta2/toyosima/goilsupt.html>

トライデント・プラウシェアズホームページ

<http://www.tridentploughshares.org/>

新聞・雑誌記事から

朝日新聞 3月20日 ひと 「核兵器違法」を訴えて来日したアンジー・ゼルターさん

「軍縮問題資料」2000年 6月号（宇都宮軍縮研究室）

「原潜にハサミで挑む-アンジー・ゼルター全国講演ツアー」, 大庭里美

「世界」2000年9月号（岩波書店）p.47-54

「わたしたちはなぜ核兵器を破壊するのか」, アンジー・ゼルター

国公労連 調査時報, 2000年5月15日,

「アンジー・ゼルターさんの新風」, 増田れい子

2000年8月キャンペーンでの日本山妙法寺の僧侶・スコットランド、ファスレーン基地前。



追記：トライデントプラウシェアズは「第二のノーベル賞」と言われる「ライト・ライブリフッド賞」を01年に受賞。